

泊原発の廃炉をめざす訴訟 第二次提訴 記念講演会

原子力エネルギーのリスクは、福島事故によって変化したわけではない。しかし、リスクの受けとめ方は、言うまでもなく変化した。大事故が生じるリスクが、単に仮説的に存在していたのではなく、このような大事故は実際にも起こり得るのだということ、より多くの人々が自覚するようになったからだ。



日本語で
わかりやすく
講演されます

資料代
500円
申込不要

Program プログラム

18:00-18:05 主催者あいさつ

常田益代 原告団副団長

第1部 脱原発に向けて

18:05-19:10 基調講演

「ドイツはどのようにして
脱原発を実現したのか？」

ミランダ・シュラーズさん ベルリン自由大学教授：環境政策研究所長
3月11日以降、ドイツの脱原発を決定づけた「原発問題倫理委員会」のメンバーであったミランダさんにおいでいただき、倫理委員会はどのようにしてつくれ、そこで何が検討されたのかについて、そして今の日本への提言をうかがいたいと思います。

19:10-19:30

「脱原発時代の北海道」

吉田文和さん 北海道大学大学院経済学研究科教授

19:30-19:45

お二人への質疑(宮内さん：廃炉をめざす会・共同代表ほか)

休憩15分

第2部 今後の訴訟に向けて

20:00-20:30

〈トーク1〉市川守弘 弁護士団長「第二次提訴の意義」

〈トーク2〉第一次・第二次原告から数名
「原告になった思い、訴訟への期待」

閉会の辞 小野有五 廃炉をめざす会・共同代表

2012.11.17 SAT かでのる2・7大ホール
PM18:00→PM20:30
〈開場 17:30〉

[連絡先]

泊原発の廃炉をめざす会事務局

TEL 011-594-8454 〈月～金 10:00-16:00〉
札幌市北区北8条西6丁目2-23-806 FAX 011-594-8455

第二次提訴記念出版『北海道電力(泊原発)は何が問題なのか?』(暫定版) [寿郎社/280ページ(予定)/税込1,680円] 11月17日刊行。
会場販売いたします。お問い合わせください!